

NHO **NEW WAVE**

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization

初期研修医・専攻医のためのコミュニケーション情報誌
NHO ニューウェーブ

発行：独立行政法人 国立病院機構 令和4年 春号

vol.47 2022 Spring

HOSPITAL

国立病院機構 北海道がんセンター

PROGRAM

初期研修プログラムの紹介

国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター

REPORT

“神経・筋(神経難病)診療中級研修” 報告

SPECIAL

特集

「NHOの救急医療」

国立病院機構 横浜医療センター

“攻めの救急”を展開し、
地場産業として地域を守り抜く

横浜医療センター 副院長・救命救急センター長 古谷 良輔



特集

「NHOの救急医療」

国立病院機構

横浜医療センター

“攻めの救急”を展開し、 地場産業として地域を守り抜く

横浜医療センター 副院長・救命救急センター長 古谷 良輔

ドクターカーの運用など“攻めの救急”を展開する横浜医療センター。
COVID-19感染症への対応をはじめ、救急科の魅力や救急医として必要なマインドなどを、
救命救急センター長の古谷良輔先生に伺いました。



横浜医療センター 「救命救急センター」の特徴

横浜医療センターの「救命救急センター」は、2010年4月1日に当院が新病院として開設し、横浜市南西部地域中核病院に指定されたことに伴い機能を大幅に拡充して新装されました。

地域のニーズに応えるため、集中治療を必要とする3次の重症患者のみならず、軽度・中程度患者といった全ての症例に24時間365日対応し、年間の救急搬送受入件数(2020年度)は4,650台となっています。



私は新病院の開設と同時に当院に赴任し、それまで横浜市にはなかった病院前救急、集中治療、救急病棟での管理といったシームレスな診療を提供できる救急を目指し、いち早く現場に急行して一人でも多くの患者さんを救うためにドクターカーを導入するなど“攻めの救急”体制を強化してきました。

また、地域の医療機関からの転送依頼にも積極的に応需しており、当センターで加療した後、地域の医療機関に治療継続をお願いするといった密な連携によって、相互機能を活かした地域完結型の救急や集中治療を提供しています。

COVID-19感染症対策においても当院の通常救急体制を維持するために、普段からの連携ネットワークを活かした近隣医療機関との転院調整や、最新情報の共有などによって近隣地域にクラスターが起らないよう感染対策につなげてきました。

船内クラスターが起きた横浜港のダイヤモンド・プリンセス号は、当院の感染症医療に大きな影響を与えた“黒船”であり、COVID-19に対峙した経験は感染症対策や感染症診療の飛躍的な向上をもたらすなど、新たな強みを得ることができたと感じています。

救急科の魅力と 救急医として必要なマインド

救急の現場では、さまざまな想定外のことが降りかかってきます。救急医にとって、そうした状況に遭遇した際、「せっかくだから」と前向きに考えることができる“折れない心”が大切です。「せっかくの機会だからやってみよう!」「せっかくだから、こうしてみよう!」といった、救急医の前向きに医療に向かう“折れない心”は、チーム医療や他科、多職種との連携など組織全体をまとめるためにも必要なスキルであ

と思っています。

また、救急は他科、多職種、さらに地域のクリニックや病院との連携も重要です。救急医はチームのスタッフたちが不安なく対応できることや、みなが自由に意見を発信できるような組織づくりができる能力も求められます。救急医になることで組織を動かすマネジメント力も獲得できるでしょう。

そして、救急医の一番の原動力は「ありがとうございました」と患者さんやご家族の方に言っていたことです。さらに救急は現代社会における課題などと密接に関わっているため社会貢献もできるなど、非常に大きなやりがいを得られる診療科です。

救急体制の課題と今後の目標

救急医療は“地場産業”です。救命救急センターを運営していると横浜市、神奈川県とだんだんスケー

ルが大きくなりがちですが、当院でいえば病院の位置する戸塚区のニーズにしっかり応えられる、地域に根付いた救急医療を提供することが重要です。

逆に当院の救急医療体制を日本全国に当て嵌められるかというと、そうではありません。救急医療は“地場産業”として、周辺地域の命をしっかりと守ることが大切であり、現在、災害医療などがクローズアップされていますが、病院業務を二の次にして、どんどん災害派遣に出ていくような風潮は良くないと感じています。

今後の目標としては、ドクターカー、救急外来、入院調整センター(PCC)でのカルテ入力におけるIT導入により、業務の効率化を図っていきたく考えています。デジタル全盛ですが、ゼロと1のみで表現されるデジタルな関係のみで世界は構成されている訳ではありません。今だからこそ「アナログな心」も大切にしたいと思っています。病院の財産はあくまで“ひと”であり、当院の救急部門から人間力をもつスタッフをどんどん育てていきたいです。

医学生や若手医師へのメッセージ

横浜医療センターは、各診療科間にも多職種間にも壁はなく、横のつながりが非常に強く、多角的にバランスよく研鑽を積むことができます。また、どの診療科に進むにしても、全診療科の先生方は教育熱心であり、人と人との繋がりやコミュニケーションを大切にした医療環境であるため、無口で消極的な方でも初期研修が終わるころにはしっかり自己主張ができ、コミュニケーション能力に優れた医師になっているはずです。

横浜市には、横浜市立大学や昭和大学、聖マリアンナ医科大学などの大学病院、さらに横浜市立みなと赤十字、横浜市民病院、済生会神奈川病院といった病院母体の異なる中核病院が揃っており、しかも何でも話せるような良好な関係にあることが特徴です。こういった都市

部は他になく、いろんな組織の人たちと繋がりができることで視野が広がり、新たな自分の可能性を見つけることもできるでしょう。

若い医師のみなさんには、迷ったり、未知のものを目の前にしたときには、立ち止まることなく、“とりあえずやってみる精神”で次の一步を踏み出してほしいと思います。そうして得た数々の経験は医師としての大きな力となるはずですよ。



PROFILE

出身地：東京都新宿区
出身大学：横浜市立大学(1987年卒)
宝 物：高校野球部の同期
横浜医療センター救命救急センターで
いままで一緒に働いた全てのスタッフ
座右の銘：やってみなはれ





カンファレンスを通して プレゼンテーション能力を獲得

横浜医療センター 副救命救急センター長 大塚 剛

救命救急センターでは、軽症であろうと重症であろうと全てのCOVID-19感染症患者さんを断ることなく診てきました。いつ急変するかわからないため、救急医としての幅広い視点が非常に重要となるからです。

入口で対応していくことは大変ですが、救命救急センターのスタッフ全員が救急科で診ることは当たり前だと思って診療にあたっています。実際、現場でCOVID-19感染症患者さんを診ていると急変することが多く、救急医が早期に介入する大切さを理解しているからです。

また、ある程度状態の安定した患者さんは内科の先生をはじめ泌尿器科や整形外科の先生もその後の治療を積極的に引き受けてくださり、こうした他科の強力なバックアップのお陰で通常救急体制を維持することができていると感じています。



救急科ではカンファレンスを通じた教育に力を入れており、医学生の方の見学の際も救急科のカンファレンスに参加していただき、普段どう考えながら患者さんを診ているのかを感じ取ってもらっています。分かりやすく相手に伝えることができるプレゼンテーション能力は安全な医療につながる重要なスキルであり、救急科では自分で患者さんを診て、自分で調べて勉強し、自分で診療を組み立て、それをカンファレンスの場でプレゼンテーションすることで分かりやすく伝える能力を研鑽していきます。

救急科の医師は救急現場で前面に立つことはもちろん、病棟で急変があったときに呼ばれることも多く、他科を支えるという側面もあり、いろんなポジションを担っている診療科です。患者さんやご家族からはもちろん、他科の先生からお礼を言われることも非常に大きなやりがいとなります。

医師の道を選んだからにはどの科でも興味をもってやっていけると思います。さまざまなことに迷わずトライしてほしいですし、多くを経験するなかで救急科を選んでもらったら嬉しく思います。



救急医として大切なのは “周りの声を聴ける力”

横浜医療センター 救急救命士 吉田 敦

救急医はチーム医療の中心となり、他科、多職種をマネジメントする力も求められます。救急救命士として、救急医の先生方をみて感じているのは、“周りの声を聴ける力”があることです。

そして、横浜医療センターは、ドクターカー導入による病院前救護への取り組みなど、医療に挑戦できる病院です。若い医師の方でも自分のやりたい医療があれば積極的に挑戦してほしいですし、我々スタッフみんなですっかりバックアップしていきたいと思っています。

COVID-19感染症に対応してい



くなかで、救急がどこまで頑張れるかが日本経済にも影響を与えるなど、「救急はこんなにも大きな社会影響を与える医療なんだ」と改めて感じています。救急医療に携わる意義は社会的にも大きく、やりがいも非常に大きな診療科です。



国立病院機構
横浜医療センター

住所 〒245-8575
神奈川県横浜市戸塚区原宿 3-60-2
WEB <https://yokohama.hosp.go.jp/>

病床数 **510**床 診療科数 **32**科

横浜医療センターの特徴

政策医療7分野(がん、循環器疾患、精神・神経疾患、成育医療、内分泌・代謝疾患、骨・運動器疾患、肝疾患)については、横浜医療センター独自あるいは国立がんセンターなど国立のネットワークで連携して先駆的医療や難治性疾患の診療を提供している。

国立病院機構 北海道がんセンター



新病院がグランドオープン。 がん診療の更なる充実と機能強化へ

北海道がんセンター 院長 加藤 秀則

最新の治療から研究まで のびのびと研鑽できる環境

2021年10月15日、「北海道がんセンター」は新病院としてグランドオープンし、がん診療における一層の機能強化が図られました。

当院は1896年(明治29年)創立の歴史ある病院であり、2009年に、がん診療連携拠点病院の中でも各都道府県の中心施設となる「都道府県がん診療連携拠点病院」の指定を受けるなど、北海道における第一線のがん病院として主導的役割を果たしています。

「緩和ケア」、「感染対策」、「褥瘡対策」、「医療安全」、「栄養指導」、「入退院」、「化学療法」、「緩和医療」など多職種が横断的に連携したがん治療のサポートチームが充実しており、さらに「呼吸器センター」、「サルコマー(肉腫)センター」、「高度先進内視鏡外科センター」、「外来化学療法センター」、「内視鏡センター」、「前立腺センター」、「検診センター」、「がんゲノム医療センター」、「口腔腫瘍センター」といった9つのセンターを開設するなど、診療科の枠を越えた横断的な治療を実施していることが特徴です。

当院は全科でがん診断治療に非常に高い評価を得ており、その証しとして外資系企業などから新薬開発

治験の依頼が多くあることが挙げられます。治験の多さは当院の臨床研究にも好循環を生み出しており、治験の委託料によって臨床研究の資金や国際学会の参加費などが賄われるなど、自分の持ち出しなく臨床研究していただくことができます。

さらに、各診療科には学会の理事を務める医師が在籍していますし、病院の診療実績を評価する雑誌や本では当院の多くの診療科がトップ10に入るなど、全診療科において全国トップレベルのがん診療を提供しています。

256列CT、PET-CT、1.5テスラMRI、リニアック、手術支援ロボット(ダヴィンチ)など最新医療機器も充実しており、先進的な治療を積極的に実施していることも特徴です。ロボット手術は不採算医療であるため多くの医療機関で手術数に制限を設けていますが、当院では制限を一切設けていません。ロボット手術を学ぶトレーニングセンターの受講費用の補助や、外科、泌尿器科、婦人科、肺がんにおいてロボット手術の指導資格をもった医師が在籍しているなど、ロボット手術を学びたい方にも最適な環境です。また、当院は開腹手術も多く手掛けており、内視鏡下手術、ロボット手術、開腹手術と全ての術式に対して高度なスキルを学ぶことができます。

がん診療と研究に携わることで、 知識も技術も高レベルの医師に

がん診療は知識と技術、両方のレベルが高くなければできません。手術はがんが一番難しいと思いますし、抗がん剤や免疫療法は内科的な知識が高くなければできません。風邪や肺炎しか診ていない呼吸器内科医は肺がんを診れませんが、肺がんを診ている呼吸器内科医は肺炎も診ることができるなど、がん診療ができる医師は良性疾患も診ることができます。

さらに、がんの研究には免疫、電子工学、分子生物学など多彩な分野があるため、興味の尽きない面白さがあります。臨床だけではなく基礎研究もすることで、診療に深みも生まれるでしょう。たとえば薬の投与はマニュアルを見ればできますが、研究したことのある医師は、副作用もしっかり理解し、薬の加減や似たような薬であっても違いがわかるなど、理解度に大きな差が生まれます。

がん診療に携わることで、知識と技術、全てにおいて高いレベルの医師になることができ、大きなやりがいも得られるはずです。

医学生や若い医師の方々は、あまり近視眼的にならないで、少しゆっくり将来を考え、いろいろなことを経験しながら医師としての視野を広げてほしいと思います。そのなかでがん診療に興味をもったのなら、ぜひ当院で研鑽を積んでいただき、医師としての高みを目指してください。



PROFILE

出身地：北海道札幌市
出身大学：北海道大学(1983年卒)
宝 物：亡くなった先輩が
特注してくれたメス
座右の銘：蛍雪の功



国立病院機構 北海道がんセンター

住 所 〒003-0804

北海道札幌市白石区菊水4条2-3-54

WEB <https://hokkaido-cc.hosp.go.jp/>

病床数 **430**床 診療科数 **26**科

〔診療科目〕

循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、精神科、緩和ケア内科、感染症内科、消化器外科、乳腺外科、腫瘍整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、頭頸部外科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、リハビリテーション科、歯科口腔外科

外来患者数 **690**名/日

救急外来患者数 **2**名/日

入院患者数 **321**名/日

(令和元年データ)

2021年10月 グランドオープン



手術室について

8室の手術室で泌尿器科、婦人科、消化器外科、呼吸器外科がダヴィンチによるロボット手術を積極的に実施



緩和ケア病棟について

緩和ケア病棟では、身体と心のつらさを和らげ、その人らしく過ごせるような援助と環境作りを心掛けています



外来エントランス

26診療科を有し、計11のがん診療により特化したセンターを開設。外来化学療法室も30床完備する

PROGRAM

初期研修プログラムの紹介

国立病院機構 呉医療センター・中国がんセンター

院内で全ての必須研修が可能。
アカデミックな基盤も獲得できます

呉医療センター・中国がんセンター 臨床研修センター部長・産婦人科科長 水之江 知哉



呉医療センター・中国がんセンターの 初期臨床研修について——

呉医療センター・中国がんセンターは700床の呉医療圏における基幹病院であり、1次から3次救急まで年間3,000件以上の救急車搬送、8,000件以上のウォークインを受け入れています。

精神科、小児科、産婦人科といった、初期研修の選択必修科が全て揃っており、外病院に行かずとも当院のなかでローテートできるのが特徴です。かつ、「がんセンター」としての機能をもっており、幅広い分野の医療をバランスよく研修することができます。



あらゆる診療科において高レベルの診療を提供しており、各科・各分野で現在どんなことが問題なのか、どんな勉強が必要なのかなど、いろんな診療科を実際に経験した上で自分に最適な専門科を決めることができます。

各科の垣根は低く、連携によるサポートもしっかりしているため、何かあれば電話対応で直ぐに相談や専門治療に移行できるなど、不安なく研修に臨むことができます。

初期研修医が自ら経験した症例を発表する臨床研究会「呉クリニカルフォーラム」(通称:呉クリ)が年3回あるなどアカデミックな修練ができることも特徴です。スライドの作り方や伝える力なども学び、それを何度も繰り返すことで、レベルの高いプレゼンテーションができるようになり、さらにそれをブラッシュアップすることで学会発表において優れた

評価を得ることができます。

初期研修2年目には、一年間でこれほど変わるのかというほど自分自身の成長に驚くと思います。

プログラムの特徴について——

内科24週以上、救急12週以上、外科、小児科、産婦人科、精神科、地域医療、一般外来は4週以上が必須です。

必修以外の期間は、将来専門とする診療科を中心に関連の診療科で研修するなど、研修期間も柔軟に決定できます。また、教育体制は上級医のもとで診察法や検査手技など、基本的な臨床技能の指導を受け診療する屋根瓦方式を採用しています。当院は三次救命救急施設であり、救急研修はローテート科と平行し、2年間を通して研修を行います。救急研修は、当プログラムにおいてベースとなる救急医療とプライマリ・ケア修得の場となっています。



国立病院機構
呉医療センター・
中国がんセンター

住所 〒737-0023 広島県呉市青山町3-1
WEB <https://kure.hosp.go.jp/>

病床数 **700**床 診療科数 **37**科

呉医療センター・ 中国がんセンターの特徴

救急研修は2年間を通して、それぞれローテート科と平行して研修を行います。救急部での救急車対応や、週半日のウォークイン患者対応など、実務研修を多く取り入れ、上級医の指導のもとに Advanced Cardiac Life Support (ACLS) が自ら実践できることを最低限の目標としています。



PROFILE

出身地：福岡県
出身大学：広島大学(1984年卒)
宝物：仲間
座右の銘：微笑誠心

読者へのメッセージ——

研修医として経験をしていくなかで判断が間違ふこともあるでしょう。失敗は誰もが通る道です。大切なのは、失敗を検証し、そこで得たものをしっかり自分のものにしていくことです。また、困難にぶつかったときや、失敗したことを仲間と共有することも大切です。みんながそれぞれの失敗を共有することで、たくさんのことを吸収することができ、多くのことを理解できるようになります。

当院の初期研修の合言葉“GO BEYOND”(自分を超越る)の精神を胸に、将来の道を自分で切り拓いていく強い想いと、こんな医師になりたいという志をもって研修に励んでください。当院は一人ひとりの想いと志に全力で応えています。

VOICE × 初期研修医・専攻医・上級医

総合的な診療力を習得。
誰にとっても最適な研修が可能

初期研修医 1 年目 **谷口 峻**

当院には精神科があるため、不定愁訴や多疾患併存の患者さんを多く診ることができ、各科と連携して治療するなど総合的な診療を学べますし、病棟や医局に行って各科の先生方に気軽に質問できたり、「今からこういう症例をするよ」と連絡をくださるなど、積極的に学べる環境が魅力です。

全診療科が揃っており、どの科でも質の高い医療を提供しているため、進路に迷っている方、決まっている方にも最適な研修ができます。



PROFILE

出身地：広島県
出身大学：広島大学(2021年卒)
宝物：家族、友人
座右の銘：先ず隼より始めよ

自ら“考える”診療ができ、
着実に成長できる研修環境です

初期研修医 1 年目 **奈良井 清夏**

病院見学で、研修1年目の先生方が救急外来で自ら動いている姿を見て当院を研修先に決めました。

救急や当直でのファーストタッチにより状態の判断ができるようになりましたし、上の先生方は一方的な指示ではなく、研修医の考えを聞きながら答えに導くような指導で、知識や技術を確実に習得できます。「呉クリニカルフォーラム」など症例発表の機会も多くあり、臨床、アカデミック共に早期から実践的経験を積むことができます。



PROFILE

出身地：広島県
出身大学：広島大学(2021年卒)
宝物：家族、友人、経験
座右の銘：七転び八起き

サポート体制が抜群で
積極的に挑戦できます

初期研修医 2 年目 **黒田 悠日**

各科の垣根は低いですし、看護師さんも優しく、女性の先生が多いなど仕事のしやすさも魅力です。常に先生方や多職種のみなさんが見守ってくださり、失敗もすぐにリカバリーされるため安心して研修に臨めます。1年もすれば一人に対応できるようになり、後輩に教える力も獲得できるはずです。

やりたい医療に全力でサポートしてくださるなど、研修医の要望に真剣に耳を傾けてくださる環境のなか、どんどん挑戦できることも魅力です。



PROFILE

出身地：広島県
出身大学：産業医科大学(2020年卒)
宝物：家族
座右の銘：失敗は成功のもと

臨床とアカデミック、両方の
修練を積むことができます

初期研修医 2 年目 **奥崎 体**

「呉クリニカルフォーラム」では発表だけではなく、質疑応答の経験ができますし、積極的に論文を執筆し、院内の研究施設で基礎研究をされている先生もいるなど、臨床をしながらアカデミックな修練が積めることも当院の強みです。

外病院に行かなくとも院内で全科研修できるため、研修プログラムも自由に組み立てることができます。いろんな科を経験できるため、3年目以降、本当にやりたい医療が見つかる病院です。



PROFILE

出身地：広島県
出身大学：広島大学(2020年卒)
宝物：チェロ
座右の銘：明日は明日の風が吹く

初心を忘れず日々精進。
描く医師像につながる病院です

初期研修医 2 年目 **加藤 尚宏**

3次救急を担う地域の拠点病院として診療科が豊富に揃っていて、様々な症例や手技を経験できること。また、各専門科の医師に直接指導をいただける環境が他の病院と比較してもストロングポイントだと感じ当院を研修先を選びました。

2年目の研修では自由にスケジュールを組めるので、今後の専門科を選択するうえで様々な診療科を回りたい人にはおすすめの研修環境です。

自分が思い描く医師像、将来への目標に向けて研鑽するには当院は間違いのない環境だと思います。



PROFILE

出身地：広島県
出身大学：山口大学(2020年卒)
宝物：犬
座右の銘：初心忘るべからず

充実の教育体制だけではなく、
働きやすさも大きな魅力

専攻医：消化器内科 **和田 薫**

屋根瓦式の指導が受けられ、わからないことがそのままにはならず、また全科が揃っているためフィードバックも直ぐに返ってきます。研修科目は週単位で選ぶことができ、救急外来は週に一回は担当するなど、充実の教育体制が魅力です。

さらに、全国のNHOの病院で行われる「良質な医師を育てる研修」や、海外姉妹病院での臨床交流、国際学会での発表など、院外で学ぶ機会もたくさん用意されています。

研修医室も完備され、女性医師も多く、患者さんは研修医に協力的など働きやすさも大きな魅力です。



PROFILE

出身地：広島県
出身大学：広島大学(2017年卒)
宝物：家族
座右の銘：足るを知る者は富み、強めて行なう者は志有

1 年後、大きく成長した
自分に出会うことができます

専攻医：消化器外科 **山口 真治**

全科揃った3次救急病院であり、院内の雰囲気も良く、呉の人は優しく研修医に協力的であるなど研修環境として申し分ない病院です。どの診療科もバックアップ体制が整っており、早期から実践的な経験を積めるため1年後には大きく成長した自分に出会うことができ、2年後にはどんな患者さんにも対応できるスキルを獲得できるでしょう。

同期だけではなく上級医との関係も非常に良好で、コロナ禍以前は飲み会や旅行をしたり、一緒に手術動画を診ながら教えてもらうなど、有意義で楽しい研修生活を送ることができます。



PROFILE

出身地：広島県
出身大学：信州大学(2019年卒)
宝物：患者さんからの手紙
座右の銘：いつも丁寧に

当院での初期研修の経験が、
キャリアを大きく支えます

呼吸器内科(卒後11年目) **荒木 佑亮**

研修医がファーストタッチを行うため、いつの間にか検査や処置のプランニングができるようになり、どんな症例でも自ら動けるようになります。全科揃った環境のなか、求めるだけ多くの症例を経験でき、さらに外来、病棟、退院後の経過まで一貫して診ることができるなど、私自身、当院での初期研修を貯金にここまでやってこれたと感じるほど、濃密な経験と学びを得ることができます。

教育環境は抜群で、専攻医として残る先生も多くいます。当院でなら3年目以降のキャリアをしっかりと支える後悔しない研修ができるはずです。



PROFILE

出身地：大阪府
出身大学：広島大学(2011年卒)
宝物：友人
座右の銘：人に勝つより自分に勝て

REPORT

“神経・筋（神経難病）診療中級研修” 報告

国立病院機構では、毎年、多彩な内容で「良質な医師を育てる研修」を開催しています。豊富な経験を持つ先生方が講師を担当。実践的なスキルが身につく充実の内容です。今回は2021年8月に行われた「神経・筋（神経難病）診療中級研修」に参加した、星野有紀先生と田妻卓先生お二人に、後日リモートにてお話を伺いました。

今回なぜ、神経・筋研修を受けようと思ったのですか？

星野…医療倫理の講義があると聞いて、難病の患者さんや意識が戻らない脳梗塞の患者さんなど、日頃の医療での疑問や悩みなどの解決のヒントがあると思い受講しました。

田妻…神経難病の患者さんへの長期的な診療、具体的にどんな合併症が起こりやすいのかなど、もっと知識を身につけたいと思い受講しました。

神経内科で楽しいこと、今後やりたいことはありますか？

田妻…たくさんの慢性期の疾患を診るうちに、パーキンソン病には多くの種類の薬があり、症状によって患者さん一人ひとりに応じた処方内容で、治療効果だけでなくQOLも変えることができることを知りました。薬にも詳しくなっていくのが今はとても楽しいです。

星野…私は電気生理の手技が好きなので、その辺の勉強もしていきたいと思っています。

同機構、NHOでよかったと思うことはありますか？

星野…このような研修の場があり、多くの先生方と交流が持てることや、所属する診療科に限らず他の科の先生方と話がしやすいことなど、楽しく勉強させていただいています。

田妻…いろいろな先生から、いろいろなやり方を教わるができること。また、毎日お昼にカンファレンスも行われているので、相談できる頻度が多いことも良い環境だと思います。

今回のセミナーを受講し、印象に残った講義はありましたか？

星野…倫理の講義のあとに、皆でディスカッションするという流れは、普段できない経験でした。それぞれ違うキャリアの先生方が、どのように考えるのかなど知れたことが、とても印象に残りました。

田妻…随意運動、脳波、病理等について知識を整理できたのは良かったです。倫理は普段講義を受けることがないので、法律上のことも知らなかったことを知ることができて良かったです。

嬉野医療センター
神経内科

星野 有紀

2016年卒



グループディスカッションで特に印象に残った点は？

田妻…四分割法の表を使ったら、表によって整理することで先が見えてくるところが良かったです。

星野…確かに、四分割法は普段どのように整理して考えたことがなかったので、症例に当てはめて自分で書き出してみようというのを今の立場でやってみるとすごく整理されていていいんだと実感しました。

セミナーを受講し、よかったこと、役に立ったことは？

星野…セミナーの医療倫理のスライドが実務に役立っています。スライドを医局に置き、診療を振り返り、整理することがありました。

田妻…僕は拒否的だった患者さんと話を重ね、こちらの提案を受け入れてもらうことができました。講義を受けたから、いい方向に持っていけたのかなと思っています。

柳井医療センター
脳神経内科

田妻 卓

2016年卒



なりたい医師像は？

星野…患者さんだけでなくそのご家族のケアだったり、周りの方たちに気を配れる医師になれたらと思います。

田妻…神経内科医に特化したことではないのですが、短い時間でも患者さんが満足できるような資質のある医師になれたらと思います。

医学生、研修医に向けてメッセージを

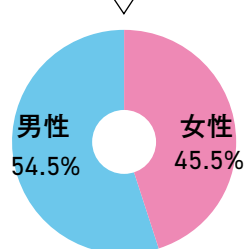
田妻…教科書で得た知識だけでは通用しないことが多くあります。他の先生方と相談しながら、患者さんたちと話し、実践することを意識してほしいと思います！

星野…いろいろな先生と関われる環境で働くことはとても大切だと思います。何をゴールに置き、何を大事にしていけるかを考えながら、経験を重ね、勉強していったらと思います！

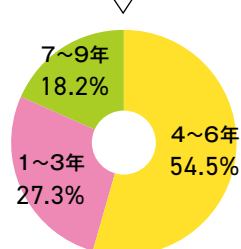
RESEARCH

セミナー参加者の声

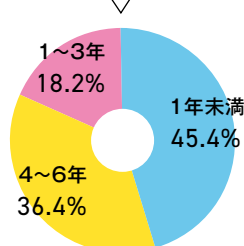
Q 性別は？



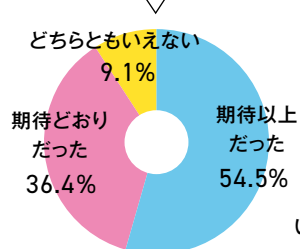
Q 経験年数は？



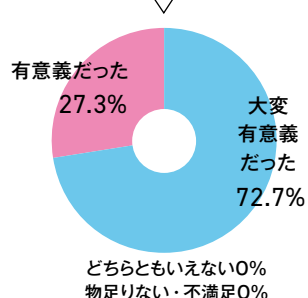
Q NHO在職年数は？



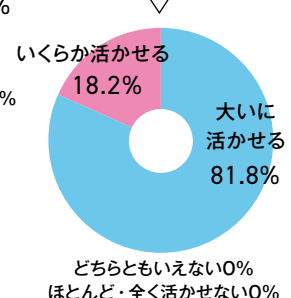
Q 期待通りの内容？



Q 研修の感想は？



Q 今後に活かせる？



BACK NUMBER × バックナンバー
過去の「NHO NEW WAVE」が
WEB サイトから閲覧できます！

https://nho.hosp.go.jp/education/education_nho.html

NHO ニューウェーブ 検索



NHO

facebook & twitter

本部公式アカウントを開設しました！

facebook

<https://www.facebook.com/nho.headoffice>



twitter

https://twitter.com/nho_headoffice



本部のSNSで発信したい情報があれば広報係までご相談ください！